

### Ⅲ. 各部門別の生産と販売の概要

#### 1. 湯浅農場

##### 1) 柑橘部門

担当 堀川勇次

##### (1) 概況

早生ウンシュウミカンの‘宮川早生’を約237 a, 普通ウンシュウミカンの‘林温州’を約35 a栽培している。樹齢は35～48年生で、古い樹は改植時期にきている。施肥、薬剤散布とも農用機械で行っているため、農用機械が走行できる通路を確保する必要があり、植栽本数は10 a当たり約120本と少ない。

##### (2) 栽培の概要

病害虫防除、施肥および除草剤散布実績は第2表、第3表および第4表の通りである。

第2表 柑橘の病害虫防除実績

防除時期	農薬名	倍率	対象病害虫名
3月9日	トモノールS	60	カイガラムシ類, ハダニ類
4月11日	IC ボルドー66D	40	かいよう病
5月20日	アプロード水和剤	1,000	カイガラムシ類
	ロディー乳剤	2,000	アブラムシ類, シャクトリムシ
	ナリアWDG	2,000	灰色カビ病, そうか病, 黒点病
5月31日	エムダイファー水和剤	600	黒点病
	モスピラン水溶剤	3,000	アザミウマ類, アブラムシ類
6月9日	エルサン乳剤	1,000	カイガラムシ類
6月22日	ジマンダイセン水和剤	400	黒点病
	トモノールS	200	カイガラムシ類, ハダニ類
	スプラサイド乳剤40	1,000	カイガラムシ類, ゴマダラカミキリ
7月15日	ジマンダイセン水和剤	400	黒点病
	アドマイヤーフロアブル	3,000	アザミウマ類, アブラムシ類
	サンマイト水和剤	3,000	チャノホコリダニ, サビダニ
8月10日	エムダイファー水和剤	600	黒点病
	ハチハチフロアブル	2,000	アザミウマ類, サビダニ
	スプラサイド乳剤40	1,000	カイガラムシ類, ゴマダラカミキリ
9月7日	ジマンダイセン水和剤	400	黒点病
	ダニエモンフロアブル	4,000	ダニ類
	アドマイヤーフロアブル	4,000	カメムシ類, アザミウマ類
9月23日	リドミルMZ水和剤	750	褐色腐敗病
11月7日	ベフラン液剤	2,000	貯蔵病害
	ベンレート水和剤	3,000	貯蔵病害

第3表 柑橘の施肥実績

施肥時期		肥料名・施肥量 (kg)	N-P-K成分量 (kg)
春肥	3月31日～4月1日	フィッシュプロテイン	
		(N6-P6-K4)	9.6-9.6-6.4
		10a 当たり 160	
秋肥	10月26日	フィッシュプロテイン	
		(N6-P6-K4)	10.8-10.8-7.2
		10a 当たり 180	
合計		10a 当たり 340	20.4-20.4-13.6

第4表 柑橘の除草剤散布実績

散布時期	農薬名	倍率	対象雑草
5月6日	タッチダウン IQ	100	1年生雑草, 多年生雑草
6月23日	タッチダウン IQ	100	1年生雑草, 多年生雑草
10月31日	タッチダウン IQ	100	1年生雑草, 多年生雑草

(3) 収穫および販売状況

2011年は雨が定期的に降り、大玉傾向になった。品質は糖度が約11度と比較的高かった。収量は約140tで昨年の約2倍であった。主に学内販売し、一部はジュース加工に使用した。

## 2) マンゴー部門

担当 藤田卓也

## (1) 概要

‘アーウィン’をハウス 20 a で栽培している。2011 年は冬の気温が低く、開花時期は平年並であった。

## (2) 栽培の概要

時期別作業内容、施肥実績および病害虫防除実績は第 5 表、第 6 表および第 7 表の通りである。

第 5 表 マンゴーの時期別作業内容

時 期	生 育 相	作 業 内 容
1 月上旬	花芽形成	除草(除草剤使用) 飛び花切除
2 月	花芽形成	芽かき
3 月下旬	出蕾期	花穂吊り上げ, 粘着トラップ設置
4 月上旬	開花期	花穂吊り上げ
中旬	開花期	花穂吊り上げ
下旬	開花最盛期	受粉促進のためのミツバチ放飼 (1 か月間)
5 月下旬	結実期	花弁落とし (灰色カビ病対策)
6 月	果実肥大期	摘果, 果実吊り上げ, 遮光ネット被覆
7 月上旬	果実肥大期	摘果, 果実吊り上げ
8 月上旬	収穫初期	収穫 (朝・夕 2 回), 出荷 (午前中)
8 月下旬	収穫最盛期	収穫, 出荷
9 月上旬	収穫終期	収穫, 出荷
9 月中旬	せん定期	せん定
10 月	新梢充実期	芽かき, 2 号ハウスに苗木定植

第 6 表 マンゴーの施肥実績

施肥時期	肥料名・施肥量	10a 当り施肥量 (kg)	N-P-K 成分量 (kg)
3 月 7 日	フィッシュプロテイン (N-P-K-Mg 7-7-5-2)	60	4.2-4.2-3.0
	さざなみ有機 (N-P-K 8-12-10)	20	1.6-2.4-2.0
5 月 23 日	オーケイ加里 (P-K-Mg 3-15-7)	40	0.0-1.2-6.0
9 月 17 日	さざなみ有機 (N-P-K 8-12-10)	60	4.8-7.2-6.0
9 月 22 日	バイオ有機 (N-P-K 1.3-1.1-0.36)	108	1.4-1.2-0.4
10 月 28 日	苦土石灰	60	
合計			12.0-16.2-17.4

第7表 マンゴーの病害虫防除実績

防除時期	農薬名	倍率	対象病害虫名
2月4日	コテツフロアブル	2,000	スリップス類
3月17日	ジマンダイセン水和剤	800	炭そ病
	スピノエース顆粒	3,000	スリップス類
5月2日	モスピラン水溶剤	2,000	スリップス類
	ストロビードライフロアブル	2,000	灰色カビ
5月19日	アーデント水和剤	1,000	スリップス類
	ストロビードライフロアブル	2,000	炭そ病
6月10日	コテツフロアブル	2,000	スリップス類
	スミレックス水和剤	1,000	軸腐病
7月1日	モスピラン水溶剤	2,000	スリップス類
	アミスター10フロアブル	1,000	炭そ病
9月28日	アクタラ水和剤	2,000	スリップス類
	サンマイルト水和剤	1,500	ホコリダニ
11月1日	アーデント水和剤	1,000	スリップス類
	オーソサイド水和剤	600	炭そ病

(3) 収穫および販売状況

収穫時期は、昨年と同様に早かったが、収穫量は前年度よりも多かった（第8表）。市場に出荷し、大阪や神戸などの百貨店で販売されている。昨年と同様に、2級品の小箱を学内販売し、好評であった。

第8表 マンゴーの販売量

	販売量(kg)
2009年	3063
2010年	888
2011年	1915

## 3) ウメ部門

担当 友廣教道

## (1) 概況

2011年12月末日時点では、面積約20 aに大梅（南高梅，他34本），小梅16本を栽培している。

## (2) 栽培の概要

病害虫防除実績は第9表の通りである。

第9表 ウメの病害虫防除実績

防除時期	農薬名	希釈倍率	対象病害虫名
3月18日	ICボルドー66D	50倍	かいよう病
3月31日	バリヤード顆粒水和剤	4,000倍	アカマダラケシキスイ
	マイコシールド水和剤	1,500倍	かいよう病
	スコア顆粒水和剤	3,000倍	黒星病
4月3日	スカシバコン		コスカシバ雄成虫
4月9日	モスピラン水和剤	4,000倍	アブラムシ類
	ベルコート水和剤	2,000倍	黒星病
	スターナ水和剤	1,000倍	かいよう病
4月30日	マイコシールド水和剤	4,000倍	かいよう病
	オーソサイド水和剤	1,500倍	黒星病
	バリヤード顆粒水和剤	2,000倍	アブラムシ類
	スターナ水和剤	1,000倍	かいよう病
5月14日	スターナ水和剤	1,000倍	かいよう病
	ダントツ顆粒水和剤	2,000倍	アブラムシ類，ケムシ類

## (3) 収量および販売実績

南高梅（写真）の収量は約1,200 kgであった。その内、生果で538 kgを学内および市場に出荷し、残りは梅干および梅シロップに加工した。また、小梅の収量は約200 kgであり、生果で50 kgを南高梅と同様、学内と市場に出荷し、残りは梅干に加工した。

今年、新たな試みとして、梅干（南高梅）を3種の方法で加工し、梅シロップも製造した。梅干については、前年までの塩分濃度20%の梅干以外に、塩分濃度15%の減塩梅干を、さらに、塩以外に焼酎、氷砂糖および米酢で漬けこんだ梅干を生産した。梅シロップについては、後述（技術報告）の方法を用いて生産した。これら梅加工品の内、塩分濃度20%の梅干は学内外に出荷し、その他は農学部祭および生物理工学部祭で販売した。

今後の展開として、生果で梅（未熟あるいは完熟果）を生産するときのロスを如何に少なくするか、すなわち、病虫害の減少、キズ等の発生防止に努めるとともに、生果で出荷できない果実は加工食品として出荷していく予定である。



写真 青梅（樹上収穫）

## 4) 水稲部門

担当 中東 豊

## (1) 概況

約 160 a の水田に、キヌヒカリ 130 a, イクヒカリ 30 a を栽培した。

## (2) 栽培の概要

周辺水田の水管理に足並みを揃えるため、例年より1週間程度早い5月2日に塩水選、5月9日に播種を行った。発芽および苗生育は順調に進み、5月30日に田植えを行った。梅雨期は雨が多かったが、きれいな稲に仕上がった。また、9月3～4日の台風12号による水田被害はほとんどなく、病害虫の発生もみられなかった。防除および除草剤散布実績は第10表の通りである。

## (3) 収穫および販売

水稲の販売実績は第 11 表の通りである。個人販売に加えて、今年も全学部、農学部祭および生物物理学部祭に白米と玄米約 430 kg 近くを販売し、好評を得た。

第 10 表 水稲の病害虫防除および除草剤散布実績

種類	防除時期	農薬名	倍率・使用量	対象病害虫名
種籾消毒	5月2日	スポルタック乳剤	1,000倍	ごま葉枯病, いもち病
		バイジット乳剤	1,000倍	イネシンガレセンチュウ
除草 (初期)	6月8日	イッテツ1キロ粒剤	1 kg/10 a	
		サスケーラジカル ジャンボ	10パック/10 a	一年生雑草等
除草 (中・後期)	6月22日	ハイカット1キロ粒剤 (一部水田)	1 kg/10 a	一年生雑草等
病害虫防除	6月3日	スクミノン (一部水田)	4 kg/10 a	スクミリンゴガイ
	6月27日	パダンバッサ粒剤	3 kg/10 a	ニカメイチュウ等
	7月21～22日	バリダシン液剤5	1,000倍	紋枯病等
		パダンSG水溶液	1,500倍	ニカメイチュウ等
	8月22～24日	アプロード水和液	1,500倍	ツマグロヨコバイ幼虫等
MR. ジョーカーEW		2,000倍	カメムシ, ウンカ等	
		ブラシンフロアブル	1,000倍	いもち病等, ごま葉枯病等

第 11 表 過去3年間の玄米販売量および販売金額

	玄米袋数 (30 kg 入)	販売金額 (円)	
2009年	257袋	2,010,200	
2010年	238袋	1,904,100	(白米含む)
2011年	271袋	2,211,650	(白米含む)

## 2. 生石農場

### 1) 黒毛和牛部門

担当 浦西章生

2009年9月より肥育を始め、約18～20か月で仕上げた。出荷内訳は、2011年5月22日に学内販売用として1頭、6月6日から和歌山市フォルテワジマ内の鳥久精肉店用として1頭、6月18、19日の株式会社モンマルシェ5店舗販売用として2頭、計4頭である（第12表）。肉質はA4格付2頭、A5格付2頭であった。そのうち1頭はBMS No. 9の肉質であり、昨年度に引き続き最上級クラスの牛肉を出荷することができたことは、肥育管理技術が確実に向上していると考えられた。今後も高級和牛を生産するために、肥育技術の向上と安定を目指したい。

今年度は、新たな試みとして兵庫県に拠点おく株式会社モンマルシェで販売を実施した。販売場所は、兵庫県内（西武庫店、時友店）と京都府内（太秦店、嵯峨店、下鴨店）の5店舗で行い、昨年以上に「近大おいし牛」のアピールを効果的にできたと考えられる。さらに、今年度、素牛の導入回数を2回に増やし（1回の導入頭数2頭）、年2回の出荷（従来、年1回）を実施したことで、ブランド化を強化していく予定である。

現在、2010年9月に導入した2頭（24か月齢、2012年1月現在）、2011年3月に導入した1頭（19か月齢H24.1月現在）、2011年9月に導入した2頭（13か月齢、2012年1月現在）の計5頭を肥育している。

第12表 黒毛和牛出荷状況表

出荷日	販売先	出荷頭数	出荷時体重 (kg)	枝肉重量 (kg)	格付	BMS NO
2011年5月22日	学内販売	1頭	690	441.3	A4	6
2011年5月22日	鳥久精肉店	1頭	731	478.6	A4	5
2011年6月6日	モンマルシェ	2頭	768	482.2	A5	8
			760	481.9	A5	9
売上合計金額					4,066,635円	

\*BMS = 牛脂肪交雑基準（ビーフ・マーブリング・スタンダード）の略。

赤身の肉にどれだけサシ（霜降り）が入っているかを数値で評価する。

数値は1～12まであり、数値が大きい程、肉質が良い。



\*株式会社モンマルシェ（西武庫店）で「近大おいし牛」の一般販売を初めて試みた。格付A5等級を販売し、大学ブランド牛をアピールした。

2) 合鴨部門

担当 岩森明彦

(1) 販売状況

2011年の売上げは521,456円であり、2010年より301,060円の売上げ増となった(第13表)。この理由として、あらぎの里でのロース肉とモモ肉のスライスの販売を2011年8月より始めたことによると考えられる(写真)。スライス形状にすることによって料理へのひと手間を省くことができたことから、一般客への販売が増えたと思われる。なお、スライスの売上げは全体の18%であった。販売先は昨年と同様に有田川町の農林産物振興センターとあらぎの里を中心に行った。



ロース (スライス) モモ (スライス)

販売は現在(2012年1月)も順調であり、昨年2回の導入を今年は4回に増やして需要対応している。

第13表 合鴨出荷状況

雛導入日	導入場所	導入羽数	飼育日数	出荷日	出荷羽数
2010年11月18日	高橋人工孵化場	42	69日	1月25日	39
2011年2月3日	高橋人工孵化場	42	56日	4月6日	29
			63日	4月6日	11
2011年2月10日*	高橋人工孵化場	32	69日	4月12日	3
2011年4月28日	高橋人工孵化場	42	69日	7月5日	10
			70日	7月6日	31
2011年7月14日	高橋人工孵化場	36	70日	9月21日	33

\*雛輸送時、低温のため育成不良。2月10日再導入。

(2) 料理メニューとしての合鴨肉の試験販売について

2010年11月より有田川町ふるさと開発公社(あさぎり:有田川町清水,二川温泉白馬:有田川町二川)で「近大おいし鴨」を使用した料理を販売している(第14表)。また、2011年7月より新メニュー「おいし鴨かつカレー」の販売を始めた。販売は順調であり、2012年1月現在、品切れ状態である。

第14表 「近大おいし鴨」料理の売上げ状況(2011年1月~11月)

おいし鴨井	おいし鴨なんぼん	おいし鴨小鍋	おいし鴨小鍋定食	おいし鴨鍋	やきとり	おいし鴨かつカレー
158食	251食	10食	78食	6食	80本	22食



おいし鴨井



おいし鴨なんぼん



おいし鴨小鍋定食



おいし鴨かつカレー  
(新メニュー)

写真 「近大おいし鴨」を使用した有田川町ふるさと開発公社での料理メニュー

## 3) ミニブタ部門

担当 岩森明彦

2011年はミニブタの分娩を5回、自然分娩と誘起分娩（ホルモン注射）で行なった（第15表）。死亡原因としては、3月3日は母豚がかみついて死亡、9月27日は未熟児であり、12月2日は妊娠日齢112日と早かったため、ヒーターの準備不足であった。

今後は、育児の不適応な母豚については繁殖に供しないようにしたい。また、冬場の低温時におけるヒーターの温度管理、分娩房の上蓋の開閉を厳重にし、早期出産にも対応できるようにしたい。

第15表 ミニブタ生産状況

出産日	出産数 (頭)	離乳日
2011年1月10日	♂4 ♀1	2月4日
2011年1月21日	♂3 ♀2 (♀1死産 ♂1圧死)	2月18日
2011年3月3日	♂2 ♀1 (♂2 ♀1死亡)	
2011年9月27日	♂2 ♀2 (♂1死産 ♂1, ♀2死亡)	
2011年12月2日	♂3 ♀3 (♂2, ♀2死産 ♀1死亡)	哺育中

\*1/10: 自然分娩, 1/21, 3/3: 誘起分娩 (それぞれ前日にホルモン注射), 9/27, 12/2: 自然分娩